

# 松原用水・牟呂用水が 世界かんがい施設遺産に 登録されました!!



世界かんがい施設遺産登録証

## 世界かんがい施設遺産に登録

平成29年10月10日メキシコシティーで開催された国際かんがい排水委員会(ICID)の第68回国際執行理事会において、ICID日本国内委員会が申請した松原用水・牟呂用水が、栃木県にある那須疏水などの3施設と一緒に、世界かんがい施設遺産に登録されることが決定されました。

世界かんがい施設遺産とは、建設から100年以上の歴史をもつかんがいが主な目的のダム・ため池・堰・水路などの施設から、農業の画期的な発展・食料増産・農家の経済状況改善に資するもの、構想・設計・施工・規模等が当時としては先進的なもの、卓越した技術であったものなどの基準により選ばれます。

日本では、今まで満濃池(香川県)や入鹿池(愛知県)など長い歴史を有する27施設が選ばれており、今回、新たに人造石工法などの卓越した技術と長い歴史が評価され松原用水・牟呂用水などの4施設が加わりました。



世界かんがい施設遺産登録が決まり水資源機構にご挨拶に見えた日比松原用水土地改良区理事長、古閑牟呂用水土地改良区理事長

## 松原用水について

松原用水は古来、大村井水と呼ばれており、用水路の建設において身を捧げた8人の庄屋は物語として伝説化され、豊橋市大村町の八所神社に祀られています。歴史的な記録としては、永禄10年(1567年)に、徳川家康の家臣、酒井忠次が橋尾村(現豊川市橋尾町)の豊川に堰を築いたことが始まりとなっています。

昨年12月には通水450周年記念式典が開催され、機構からも甲村前理事長が出席し祝辞を述べさせて頂きましたが、愛知県内最古の農業用水施設として伝わっています。以下の絵図は旧鳳来町(現新城市)小川区が所有されている「日下部井堰引船図」といわれているものですが、中央に船通しを備えた一文字堰が河川に築かれている状況を示しています。江戸時代の様子と高い技術がうかがえるものです。このような堰は、長



日下部井堰引船図(所有:旧鳳来町(現新城市)小川区)



八所神社

い歴史の中では、洪水等で何度も流されますが、人々の努力により、その都度、復旧されています。

こうして守られてきた施設は、現在、水資源機構の牟呂松原頭首工に引き継がれ、受益面積600ヘクタールを超える農地を潤し、地域の礎となっています。

## 牟呂用水について

牟呂用水も、通水から130年の歴史を持つ用水路です。明治21年(1888年)に山口県出身の毛利祥久氏が現在の豊橋市神野地区の新田開発を行うために、破損していた賀茂用水を拡幅、延伸したことが始まりです。

しかし、この新田開発は、明治24年(1891年)の濃尾大地震や明治25年(1892年)の水害などで、大きな被害を受けたために断念されます。これを名古屋の実業家の神野金之助氏が引き継ぎ、厳しい風水害等に、伝統的な左官の技法「たたき」を応用した人造石工法によって強固な堤防を築くことで対応します。この人造石工法は、その後、水路工事にも応用され、現在に繋がる施設の基礎となります。

このような幾つもの苦難の末、明治27年(1894年)に完成し、明治29年(1896年)に、賀茂神社(豊橋市賀茂町)前に竣工記念碑が建てられます。そして、現在もおよそ1,000ヘクタールの農地を潤しています。

## 松原・牟呂用水と水資源機構

松原用水・牟呂用水ともに、その後も、風水害等で破壊されますが、粘り強く改修を繰り返し、現在に繋がる施設を築いて行きます。

しかし、それらの施設も老朽化し、昭和26年県営小規模かんがい排水改良事業がスタート。そ



明治27年当時の第一号樋管:上流から撮影(所有:牟呂用水土地改良区)



現在の第一号樋管:下流から撮影

の後、松原用水と牟呂用水の取水口の合併などにより、県営かんがい排水事業と成り、愛知用水事業の終了した愛知用水公団(現在の水資源機構)に承継されます。

その後、水資源機構は、改良区の方々と力を合わせて、施設の管理を行い、豊川用水施設緊急改築事業、豊川用水二期事業を併せて実施しています。

## 記念除幕式について

今回の松原用水・牟呂用水世界かんがい施設遺産登録を受け、平成30年3月24日に、登録記念行事として牟呂松原頭首工左岸の広場で記念碑除幕式が、会場を移し記念式典が松原用水土地改良区、牟呂用水土地改良区の主催で開催されました。桜も咲き始める春の暖かな日差しの中で行われた除幕式では、大村愛知県知事はじめ、日比松原用水理事長、古閑牟呂用水理事長と共に、佐藤水資源機構副理事長や関係する多くの方々が除幕の紐を引かれ、世界かんがい施設遺産登録をお祝いしました。

水資源機構としましても、この貴重な松原用水、牟呂用水の社会的価値のある機能を、さらに50年、100年と未来に引き継いで行くため、管理に、二期事業に努めて参りますので、よろしく願います。

